

市民公開講座報告

—今最も多いがんである大腸がんの最新の話題—

がん診療拠点病院委員会

熊本地域医療センターでは、2025年12月6日（土）に市民公開講座「今最も多いがんである大腸がんの最新の話題」を開催しました。当日は杉田裕樹院長自らが座長を務め、熱心な参加者との活発な質疑応答が行われました。

第一講演では内視鏡検査部長・脇幸太郎医師が「大腸がんから未来を守るために～大腸内視鏡検査と内視鏡治療の力～」と題し、大腸がんの現状や早期発見の重要性、ポリプ切除による予防効果について分かりやすく解説しました。検査を受けたことがない50歳以上の方に向け、内視鏡検査の有効性を強調し、受診の必要性を呼びかけました。当院では初診から極めて短期間で内視鏡検査・内視鏡治療ができることをお伝えしました。



続く第二講演では消化器外科部長・美馬浩介医師が「増加している若年性大腸がんに関連する生活習慣」をテーマに講演しました。前半では外科治療の進歩について触れ、腹腔鏡下手術により痛みが少なく回復が早い、整容性にも優れた低侵襲治療が可能となったことを紹介しました。また、肝転移を伴う進行大腸がんに対しても薬物療法と外科手術を組み合わせた集学的治療により予後改善の可能性を示しました。後半では、加糖飲料や西洋型食生活、肥満、飲酒・喫煙、運動不足などが若年層の発症に深く関わることを最新の研究とともに解説し、生活習慣改善の重要性を訴えました。

今回の公開講座を通じ、地域の皆さまに大腸がんの正しい知識と予防の大切さをお伝えできたことは大きな成果です。大腸がんは早期発見ではほぼ治療可能な疾患です。ぜひ患者さまのご紹介をお願い申し上げます。地域の先生方と連携し、安心して受診いただける環境を整えておりますので、どうぞお気軽にご相談ください。



熊本地域医療センター勉強会のお知らせ

日時/2026年1月26日(月) 19:00~20:00

形式/ハイブリッド方式 オンライン参加 or 会場参加
オンライン参加: ZOOM 会場参加: 新館6階ホール

申込方法

kumamotochiiki@gmail.com (※1) までメールにて「所属医療機関名」および「氏名」を記載し、お送りください。(後日、詳細な参加方法についてご案内いたします。)



①症例報告

放射線科 松川 哲也 医師

『造影 MRI 検査で EOB ではなく通常のカドミウム造影剤を選択すべき肝疾患について』

②特別講演

呼吸器内科 廣岡 さゆり 医師

『肺吸虫症について』
CC46: 咳・痰

熊本地域医療センターだより

当院HPはこちら

院長 杉田裕樹 令和8年(2026年)1月発行
熊本地域医療センター電話番号(代表) 096-363-3311 FAX 096-362-0222
〒860-0811 熊本市中央区本荘5丁目16番10号 <https://krmc.city.kumamoto.med.or.jp> 2026 1 月号 通算248号

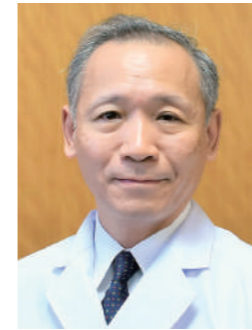
熊本地域医療センター 理念

かかってよかった。紹介してよかった。働いてよかった。
そんな病院をめざし、地域社会に貢献します。

年頭の辞

未来は自分たちで切り開くもの

熊本地域医療センター院長 杉田裕樹



あけましておめでとうございます。

昨年(2025年)は団塊の世代が75歳以上の後期高齢者になり超高齢化が加速するとされたいわゆる2025年問題の年でした。まさに、その通りとなり高齢化はますます進んでいます。一方少子化も予想以上に進んでいて、人口減少問題が深刻化しています。とくに生産年齢人口の減少は日本経済においても医療の分野においても大きな問題となっています。これに加えて著しい物価高騰は国民の日常生活に大きく影響を与え、また医療界においては診療報酬がほぼ据え置きであったことから赤字経営の病院が増加しているといわれており、これについては多くの報道機関で取り上げられ社会問題化しているところです。本原稿を執筆している12月上旬において、

2026年の診療報酬改定でどれほどの上昇率があるかが、最も気になるところです。診療報酬は、このところしばらく国の政策により抑制されてきましたが、久しぶりに大幅に上げて欲しいと願います。

一方、病院には別の問題も存在します。それは、多くの病院ではコロナ禍以降の病床稼働率低下があります。その原因として、患者の病院へのかかり方の変化や医療人材不足などがあるようです。稼働率の低下により病院の統合や縮小化が進むことになりそうですが、統合においては赤字経営のためうまく進まない病院もあることなどが報じられ、また昨年病床削減に対する交付金支給がありました。希望する病院が多すぎるために打ち切りとなってしまいました。このように統合・縮小化もあまり進んでいないようです。後者につきましては令和7年度補正予算案に病床削減に関する交付金の項目が盛り込まれているので今後進む可能性があります。とにかく2025年は多くの問題が噴出した年であったと思います。

その中で熊本地域医療センターにおいては、2025年度はコロナ禍以降に低下していた病床稼働率を改善させることができました。それに伴い収支についても、依然厳しいものの今年度は昨年度よりかなり改善しております。地域医療連携を深めることで紹介患者が増加し、また救急車受け入れ促進などで救急患者受け入れ数を増加させていることが要因と考えられます。これは当院の職員全員がやる気を出し、同じ方向を向いているからこそ可能になっているのだと思います。

本年あるいはこの先どうなるのか、ある程度の予測をすることは重要ですが、映画バックトゥザフューチャーⅢのドク博士のセリフのように「未来は自分たちで切り開くもの」なのだと思います。

本年も当センターをどうぞよろしくお祈り申し上げます。

熊本地域医療センター

TEL. 096-363-3311
FAX. 096-362-0222

検査予約・連携室 . 096-366-1323

外来予約 . 090-9472-1177

医師専用電話相談 . 090-2964-0600

放射線科

診療を支える 高性能機器 × 迅速対応 × 的確診断

当院の放射線科は
放射線科医 3名 松川哲也（総合診療部長）、矢村正行（放射線科部長）、吉村文博（放射線科医師）
放射線技師 13名 看護師 数名 医療事務 2名で毎日の業務を行っています。
今回は主に、MRI 検査を中心に紹介します。

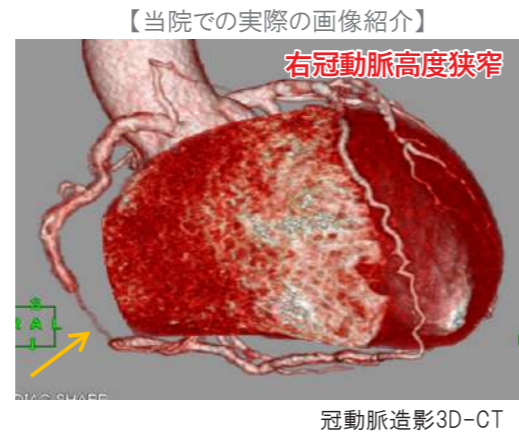


放射線科部長
矢村 正行

日本医学放射線学会 専門医
日本医学放射線学会 指導医
日本医学放射線学会 放射線診断専門医

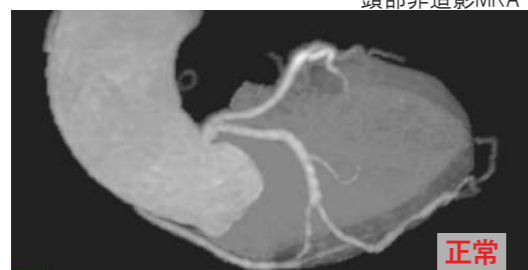
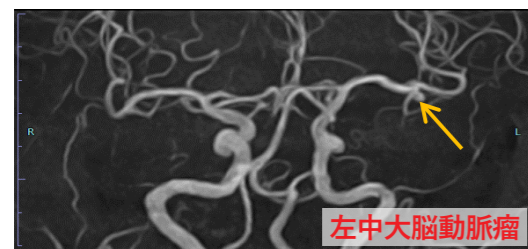
CT 約30~40件/日 使用機器 Canon Aquilion ONE PRISM Edition 320列 2台

当院は高性能の320列 CT を2台有しており、**短時間、低被曝**での撮像が可能です。
当院の特色としては、多列CTであり**冠動脈3D-CT**で高画質の画像が得られることです。息止めが難しいなど**体動のある患者様**でも比較的良好的な画像が得られます。ただし冠動脈CTはまず循環器内科への紹介をしていただいております。

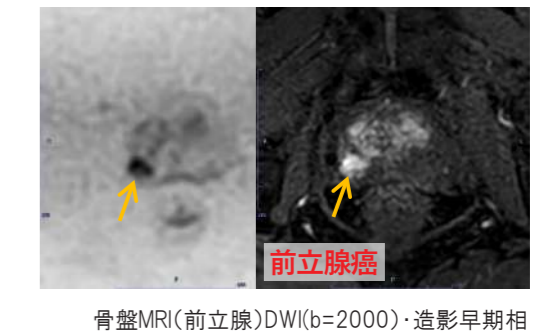
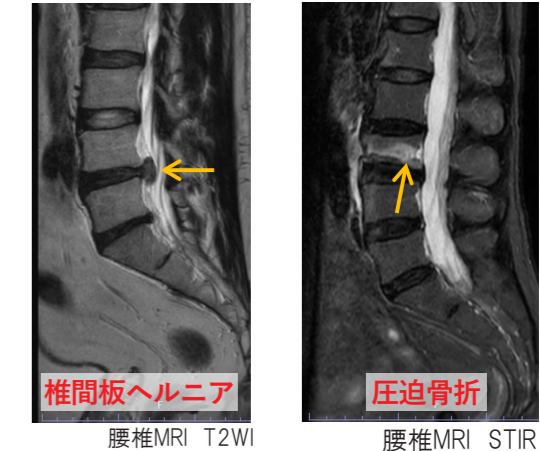
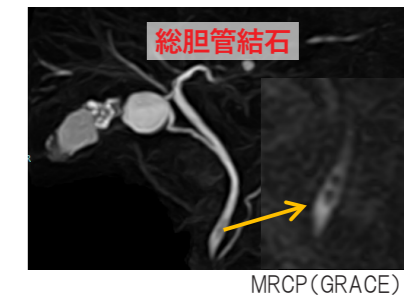
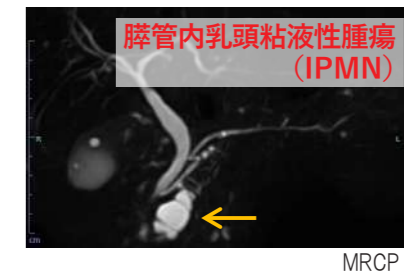
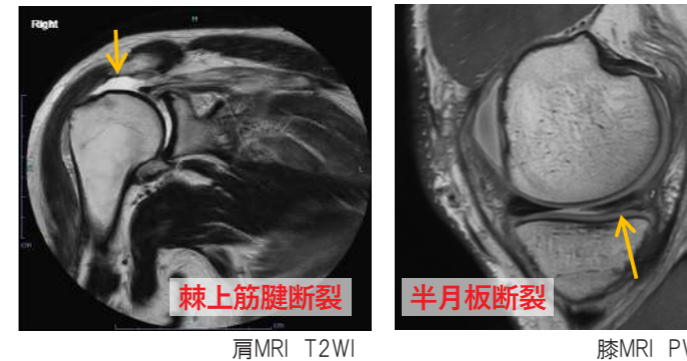
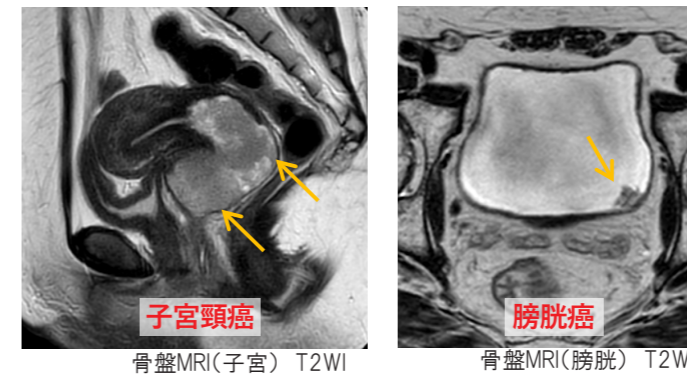
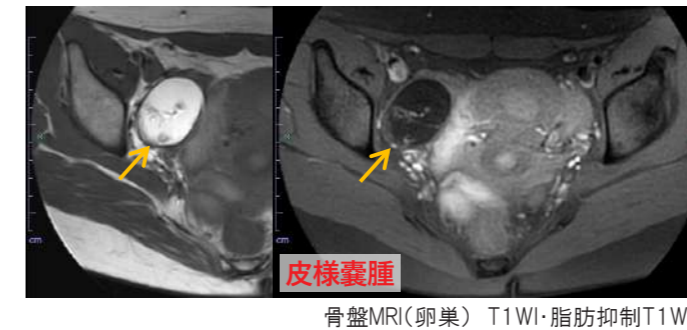
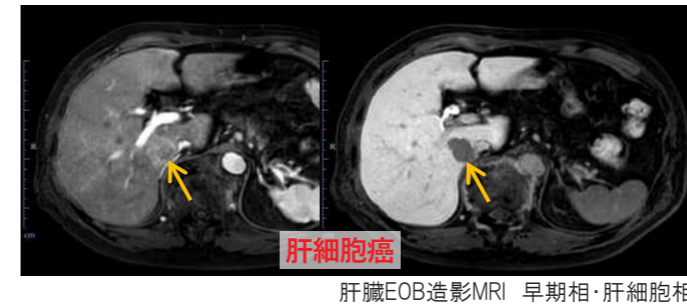
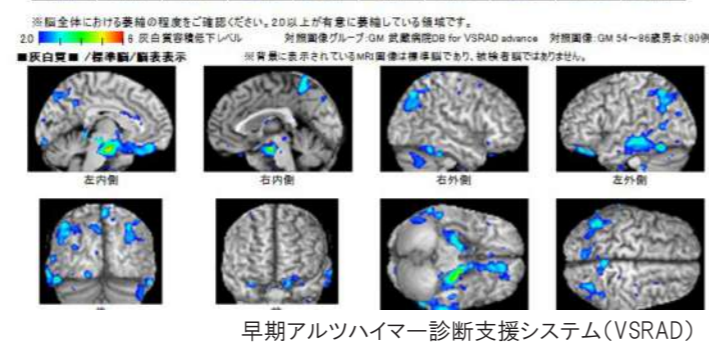
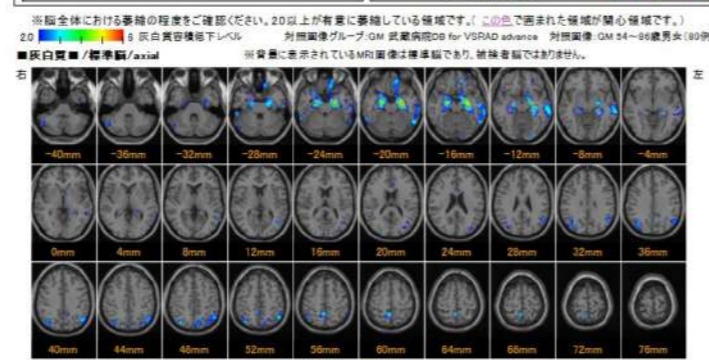


MRI 約15~20件/日 使用機器 Philips Ingenia 3T 1台
Philips Ingenia 1.5T Evolution 1台

一般的には1.5T より3Tの方がよいと思われていますが、どちらもメリット、デメリットがあります。
当院の特色としてはハイグレードの**3Tと1.5Tの両方を有しており、目的に応じて使いわけています**。また**条件付きMRI対応ペースメーカーの認定施設**であり、1.5Tでの撮像が可能です（最近3T対応のペースメーカーもありますが）。この場合は事前の日程調整と予約が必要です。頭部の**VSRAD**も1.5Tでの撮像が可能です（3Tでは正確な値がでないことが多いため）。



<p>① 脳内委縮度 - Severity of VOI atrophy</p> <p>VOI内の平均値をスコアの準拠とする。</p> <p>【解説】脳内委縮度の指標として用います。値が高いほど、脳内委縮が進行していることを示唆します。</p> <p>【参考】10~15 軽度から中等度の脳内委縮が認められる。</p> <p>3.07</p>	<p>② VOI内委縮領域の割合 - Extent of VOI atrophy</p> <p>VOI内のスコアの20%領域の割合。</p> <p>【解説】脳内委縮領域の割合を示します。値が高いほど、脳内委縮が進行していることを示唆します。</p> <p>【参考】0~20 軽度から中等度の脳内委縮が認められる。</p> <p>88.86%</p>
<p>③ 全脳委縮領域の割合 - Extent of GM atrophy</p> <p>全脳内のスコアの20%領域の割合。</p> <p>【解説】脳内委縮領域の割合を示します。値が高いほど、脳内委縮が進行していることを示唆します。</p> <p>【参考】10~15 軽度から中等度の脳内委縮が認められる。</p> <p>4.37%</p>	<p>④ 委縮比 (VOI内/全脳) - Ratio of VOI/GM atrophy</p> <p>全脳委縮領域とした割合。</p> <p>【解説】脳内委縮領域の割合を示します。値が高いほど、脳内委縮が進行していることを示唆します。</p> <p>【参考】10~15 軽度から中等度の脳内委縮が認められる。</p> <p>20.34%</p>



RI 約3~5件/日 使用機器 GE NM 830 1台

このように、いろいろな診療科の先生方からの依頼を承っており高性能の機器で、高画質の画像を提供しています。もちろん確な診断も提供するよう心がけています。読影以外にも依頼時には消化管透視や血管造影も行っています。またCTは当日緊急検査も受け付けております。MRIは日によっては難しいこともありますが、できるだけ当日検査も受けるようにしております。

今後とも当科へのご紹介をよろしくお願いいたします。